

## □最近の活動状況

## 【新年懇談会】

— 1月31日(火) クーラクーリアンテ・サンパレス—

講師 作家 江上 剛氏

テーマ 「これからの日本経済—創業の時代」

参加会員数 52名

講演会に先立ち、北村代表幹事が「我々は、企業の発展、経営者として成長するために、共に学ぶ会を目指して活動していきたい」と挨拶されました。

その後、講師に作家の江上剛様をお招きして「これからの日本経済—創業の時代」と題してお話をいただきました。以下、講演録を掲載します。

## ○創業の時代

日本が危機的な状況になった時、どうすれば良いでしょうか。ジャレド・ダイヤモンドさんの著書「危機と人類」の中に「危機を囲い込め」とあります。漠然とした不安に対して、これから押し寄せてくる危機を具体的に列記し、どう対処していくのかを考えることが重要だということです。また、この本の中で成功した例として「明治維新」を挙げています。明治維新の人たちは、日本に押し寄せる危機を具体的に考え、それに対して対処したことが評価されています。

不安は我々の目を曇らせます。例えば、ゴルフでティーグラウンドに立った時やパターを打つ時などプレッシャーがかかると突如自分の思い通りのプレーができなくなることがあります。「どうしよう…」と考えるのではなく、「失敗しても大丈夫だ」と前向きに捉えることが重要です。

訪れる危機を乗り越えていくため、危機を囲い込み、臆することなく挑むことが我々に求められると思います。

今「貞観政要」をサラリーマンへ向けて分かりやすい現代語に訳する仕事をしています。ご存知だと思いますがこの本は、中国の唐時代に「貞観の治」と言われる安定した時代を創った太宗の言語録です。徳川家康や明治天皇などが政治を司る上で参考にしたと言われています。そこに「守成は創業より難し」という有名な言葉があります。「国を創るよりも守ることが難しい」という意味ですが、日本は守りすぎたと思います。戦後の高度経済成長期以降の日本は、財産が朽



講師 江上 剛氏

ちていくのを見ていた時代でした。今こそ創業の時代だと思います。「危機はチャンス」と経営者はよく言います。我々には、平等に危機とチャンスが訪れます。危機をチャンスと捉え失敗を恐れず冒険し果敢に行った人が成功を治めることができると思います。



講演会風景



北村代表幹事



芳見代表幹事

## ○成功事例の紹介

危機を乗り越え成功した2つの具体的な事例を紹介したいと思います。一つ目は、富士フィルムです。富士フィルムは自社の技術を掘り下げたことで成功した例です。

2000年に富士フィルムの社長に就任した古森さんは、当時、デジタルカメラの普及で写真フィルムの需要が激減しており「フィルムは無くなる」と本業消失の危機を感じ、事業転換に踏み切ることを決断します。まず、社員の部署をシャッフルし、これまで培ってきた自社の技術で何が出来るのかを全員で議論し整理させました。古森さんはこれを「技術の棚卸」と言っていました。それによって生み出されたものが、カラーゲンの技術、ナノ化の技術、抗酸化の技術、乳化の技術です。他社よりも少しでも優れているこれらの技術に加え、富士フィルムに対するお客様からの信頼が根幹にありました。その信頼をベースに、これらの技術を市場拡大が見込める医薬品や化粧品などの分野に応用していきました。

富士フィルムは、「フィルムが無くなる」という危機感を社内で共有し、自分たちの価値を醸成し同じ価値観を持つことで事業転換を成功させました。

もう一つは、異能の人を探すことです。その例として、イトーヨーカ堂の創業者の伊藤さんとセブンイレブン導入を主導した鈴木さん、2人のカリスマ経営者について紹介します。

伊藤さんは、戦後の混乱期、戸板1枚ほどの場所でお母さんとメリヤスを売ったところから始まりです。資本も無いところから信用の積み重ねによって商売を大きくしていきました。

鈴木さんは、広告代理店に勤めていましたが伊藤さんにスカウトされイトーヨーカ堂に転職し幹部へと昇

進していきます。鈴木さんが取引の関係でアメリカを訪れたとき、全米に展開しているコンビニと出会い、この仕組みを日本に導入することを閃きます。伊藤さんは石橋を叩いても渡らないタイプなので、大反対しました。鈴木さんは変化対応型で、水と油のような全く違う性格の2人ですが、企業にとってはバランスが取れていました。

鈴木さんは粘り強くお願いをし、伊藤さんが根負けします。しかし、日本でまだマーケットが確立されていない新規産業です。伊藤さんはイトーヨーカ堂というスーパーで大成功を収めていましたが、その成功パターンを鈴木さんに押し付けることはしませんでした。鈴木さんは苦労しましたが、他とは違う自由な発想で、日本初のコンビニ「セブンイレブン」を立ち上げ大きく成長させることができました。

2つの例を挙げました。富士フィルムは自社の技術を掘り下げ、社員全員で価値や危機感を共有し上がっていくパターン。コンビニのセブンイレブンは、異能の人を見つけて、その人に成功パターンを押し付けずに任せるパターン。皆さんの参考にしていただければ嬉しいです。

## ○これからの福島

最後に福島のことをお話します。私は、松尾芭蕉が須賀川市で詠んだ句「世の人の見つけぬ花や軒の栗」を見つけたとき、経営者が考えるべき句だと思いました。「俳句友達の僧侶が、世の中の喧騒から離れてひっそり暮らしていた。その家の軒近くに白い栗の花が咲いていた。栗の木は西方浄土をイメージする木と言われていた。僧侶は世の中の人々が注目しない栗の花の趣に気付いている」という意味です。誰も気づいていない花のように世間の人々が注目しない、あるいは、あつたらしいなと思っているニーズ



清水顧問



懇親会風景

が日々の生活の中にあります。そのニーズを見つけ突き詰めていくことが必要です。失敗しても大丈夫だという気持ちで前進していけば、イノベーションの時代がやってくると思います。

福島は東日本大震災で数々の試練に見舞われました。まだまだ苦労はありますが、この先も立ち止まる

ことなく、希望のニーズを見つけ出し、力を合わせて進んでいけば絶対に福島は新しい出発ができると思います。皆さんの頑張りを期待しております。どうもありがとうございました。

(文責：事務局)

## □今後の予定

【第1回朝食勉強会】 ※2023年度より、毎月第2火曜日に朝食勉強会を開催します。

日 時：2023年4月11日(火)

会 場：クーラクーリアンテ・サンパレス

講 師：福島市長 木幡 浩 氏

【第36回全国経済同友会セミナー】

日 時：2023年4月13日(木)～14日(金)

会 場：出島メッセ長崎

テーマ：「経済人として安全保障にどう向き合うか」

福島経済同友会のホームページにて、活動状況や今後の予定などいち早く掲載していますので、ぜひご覧ください。 URL：<https://www.fukushima-doyukai.jp/>

## 編集日誌

◇ World Baseball Classic で、日本代表“侍ジャパン”が14年ぶり3度目の世界一達成!! 1次ラウンドを4戦全勝の1位で通過し、準決勝では劇的なサヨナラ勝ち、決勝戦は手に汗握る接戦となり、大きな注目を集めました。試合前の円陣の様子からは、チームが団結し最高の雰囲気プレーしていることが伝わってきました。

◇今回、企業紹介で瓜生副会長にお話を伺った際、「社会課題に全員野球の『チームエフコム』として取り組む。少し古臭いけどね。」と、微笑みながらおっしゃった言葉が印象的でした。

◇スポーツのみならず何かを成し遂げるために、関係者全員が一致団結することの大切さを改めて実感しました。

◇当会の事務局長を約9年間務めました渡辺に代わり、4月から高城が事務局を担当します。よろしくお祈いします。(今野)

## □会員企業紹介 【第33回 株式会社エフコム】

今回は当会の幹事を務めていただいている、株式会社エフコムの瓜生副会長にインタビューしました。人材育成で力を入れていることや地域社会への貢献についてなど様々なお話をお聞きすることができました。

### ○創業の経緯

まだITという言葉が無かった1980年、地域の情報化を支える計算センターを創ることとなり、福島県下の地元有力企業と大手計算センターである富士通エフ・アイ・ピー(株)との共同出資にて(株)福島ファコムセンタが設立されました。



瓜生 利典 代表取締役副会長

社名の由来は、富士通が自社製コンピュータに使用していた商標の「FACOM」からきています。1998年に社名を変更することになり、社内公募で集まった案から、福島県、ファミリー、ファイティングスピリットなどの想いを込めた「F」とコンピュータを意味する「COM」から(株)エフコムに決まりました。

### ○お客様と共に感動を創造する

社員全員が一丸となって取り組む「チームエフコム」の精神で、「Smart thinking for you」の文化を醸成し、「お客様と共に感動を創造する企業」を目指し活動しています。私たちの知識やノウハウを、お客様の問題解決のために活用していただき、100年続く企業を目指して歩んで参ります。

### ○人間力を高める

IT企業として専門性の高い技術力は当然必要です。その技術力でお客様に喜んでいただき、お客様の仕事に生かされ、「また頼みたい」と言ってもらえるかどうか的大事であり、そのためには「人間力」が求められます。当社では、重要な経営資源である「人財」が活躍するための塾を定期的に開催しています。お客様のニーズにお応えするため、開発やプロジェクト管理スキルだけではなく、ヒューマンスキルの向上にも重点を置いています。「人間力」の向上を目的に社員自らが講師となり、チームで成長できる取り組みを推進しています。

### ○地域への貢献

少子高齢化に伴う廃校の利活用は地域活性化のため尽力すべき命題の一つと考え、旧郡山市立上伊豆島小学校を「エフコム ドリーム・ラボ上伊豆島」として整備し2022年にオープンしました。本拠点には、当社のサービスビジネス本部とシステム本部の約60名が勤務しています。またインキュベートルームやコワーキング

スペースの提供や、実際の教室で最新の教育ICT設備を展示するなど、人が学び・働き・遊び・夢を形にする場として地元根差した取り組みを行っています。

「エフコムベースボールクラブ」は、2021年3月より旧「富士通アイソテックベースボールクラブ」を引受け、現在は当社社員を含む各企業のメンバーが集い「野球で福島を元気に!」をモットーに活動しています。福島県の野球レベル向上、さらには地域社会を担う人材の育成など、循環型の仕組み作りも目標の一つとして取り組んでいます。

### ○サステナブルな社会への貢献

福島市にある福島データセンターに、2021年12月、東北地域のIT企業初となる大型ロール紙プリンタを導入しました。本プリンタは、帳票のプレプリントと個人ごとのデータを同時に印字できるため、従来のプリント方式と比べお客様へ短納期で効率的なプリントサービスをご提供することができます。これにより、廃棄用紙の削減や用紙の輸送機会の低減につながり環境へ配慮したプリントサービスを実現しています。

### ○「百年企業」を目指して

設立以来、飛躍的に進化するICTに順応し、お客様に支えられながら、多くの経験と知識を蓄え成長し続けることができました。新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの生活様式や働き方に対する変化への対応が求められ、新たな社会の在り方が構築されてきました。今後、いかなる変化にも対応し、サステナビリティを経営の最優先課題ととらえ、事業を通じた社会課題の解決に全力で取り組んで参ります。



住 所 〒963-8520 郡山市堤下町 13-8  
 設 立 1980年9月  
 従業員数 407名  
 T E L 024-922-2555  
 U R L <https://www.f-com.co.jp>

